

各事業のロードマップ(18期)

学会の基本的な活動方針：17期に引き続き、18期も国内における応用的・実践的なスポーツ栄養学の基盤づくりと発展を目指す。この方針を全ての委員会および事業の根幹とし、18期の事業計画を遂行する。

委員会	中期的目標 (17-18期)	17期に対する評価		18期の目標	
研究誌編集	・研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第17号の掲載論文は11本で、目標数には届いていない。 ・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号を発行した。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・第18号の総掲載数15～20本を目標。 ・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号を発刊する。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回大会の発表者に対し、現地での声かけを行い、投稿を促す計画を立てている。さらに、研究誌のプレゼンス向上のため研究誌の外部データベースへの登録作業を行っている。 ・サプリメント号発刊に向けて予算の調整などをおこなった。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学会大会等での発表者に対し、論文(ショートレポートを含む)の執筆を促し、必要な支援を行う。 ・研究・教育支援事業運営委員会とサプリメント号の編集作業にかかわる査読者の情報共有などを行う。 ・外部データベースへの登録作業を進める。
研究・教育支援事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動報告の発信に向けた各種講習会による支援体制づくり ・スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・研究誌編集委員会と協力し、2023年8月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号(ショートレポートを8本掲載)を発刊した。 ・スポーツ栄養学の基盤を高めるための研修会を公認スポーツ栄養士更新研修11月、セミナー12月の2回にわたり予定どおり開催した。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究誌編集委員会と協力し、2025年8月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号(ショートレポートを10本程度)を発刊する。 ・スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供(更新研修・セミナー各1回)を行う。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年10月と2024年3月に希望する会員を対象に第2、3回ショートレポート執筆マッチング企画を実施した。参加人数は第1回よりも減少したが、参加者の満足度は高い企画であった。 ・投稿されたショートレポートに対する執筆指導および査読を随時行った。 ・2023年9月の第9回大会において、執筆マッチング企画に関するシンポジウムの開催、及びマッチング希望演題表記を採用した。 ・2023年11月に更新研修、12月にセミナーでは日々の実践より得られた結果を質的・量的観点からまとめていく方法や、サポート時に役立つ他職種の専門的知識などについて研修を開催した。しかし、学会員向けのセミナーでは、参加人数が減少した。次期は専門的知識だけでなく、会員にとって訴求力の高い講習会も企画することを検討していきたい。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年11月と2025年8月までを目処に希望する会員(30～40名程度)を対象にショートレポート執筆マッチング企画を実施する。またマッチング成立後の課題について調査を行う。 ・投稿されたショートレポートに対する教育的査読を引き続き行い、その体制を拡充する。 ・2024年11月に更新研修、12月にセミナーを開催する。講演内容は、公認スポーツ栄養士及び学会員に対し、実践活動報告を推進する内容を主軸とするが、訴求力の高い講習会を運営し、参加者の向上を目指す。

渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体との連携をよりスムーズに行う。 ・可能であれば、新規団体との連携を模索する。 ・臨スポとの合同シンポジウムのあり方を引き続き整理していく。の定着 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・連携機関等からのイベント開催の情報共有をメールニュース等で行うことが、JSNA 学会員を対象とした他の情報共有を妨げる可能性が考えられたため、発信を控えている。 ・第 17 期では、第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会にて合同シンポジウムを開催し、「外傷・障害からの復帰時の栄養管理」というテーマで各学会より 2 名ずつ登壇し、フロアからも参加者から多く質問がなされた。 ・学会情報のニーズについては引き続き検討していく。 ・日本栄養学学術連合からは東京栄養サミット 2021 のコミットメントの対応として、JSNA で該当する項目の整理を行っている。その他、日本スポーツ体育健康科学学術連合、健康日本 21 連絡協議会の定例会議にも、庶務と連携して会議に出席し状況確認を行っている。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携の継続 ・他学会と連携した合同イベントの開催と、学会員への周知、参加促進
	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・他学会の所属を把握するためのアンケート実施については、引き続き慎重に検討する。 ・第 10 回大会では JSNA 側で日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムを行うこととなっており、準備を進めている。 ・東京栄養サミット 2021 のコミットメントの対応も、引き続き進める。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体からの渉外事案発生時のスムーズな対応 ・東京栄養サミット 2021 のコミットメントに関する情報収集、提供 ・日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウム開催に向けた計画的な運営 	
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流推進の意義を理解できる会員を増やす。 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 期の活動報告を HP に掲載した。 ・JSNA 内における国際交流活動の認知度及び活用の実態を 2023 年 9 月に調査した。 ・ PINES から届く全ての E-News の抜粋翻訳を行い、 PINES が発信している記事を 2 報翻訳して学会員に発信した。 ・初めて JSNA の会員の活動を翻訳して PINES に発信した。 ・1 月に KSEN の新しい理事長および会長とオンラインで会談を行い、KSEN との学術交流活動について、KSEN が発行している国際誌 Journal of Physical Activity and Nutrition に論文として掲載した。 ・2024 年に開催される第 10 回大会での国際交流セッションの開催が決まった。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ PINES：相互的かつ定期的な情報発信に発展させる。 ・ KSEN:学術交流活動の活性化に向けた取り組みを実施する。 ・国外のスポーツ栄養に関わる研究者やスポーツ栄養士との交流を模索・促進する。
	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ PINES との関係は良好である。 PINES の発信する記事を JSNA が翻訳するほか、JSNA から提供したオリジナルの記事を世界各地の PINES 会員に向けて発信いただくなど、 PINES 内における JSNA のプレゼンスを高められている。 ・ KSEN と JSNA 会員間の交流は再開できていないものの、 KSEN との連絡体制は維持できており、交流の再開は可能となっている。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ PINES から届く全ての E-News の抜粋情報と、 PINES が発信している記事を年間 2-3 編翻訳して学会員に発信する。 ・ PINES に対して JSNA から 1 編以上の記事を提供する。 ・ KSEN と活動の再活性化に向けた意見交換を行う。 ・ HP に第 17 期の国際交流報告活動を掲載する。 ・2025 年の学会で国際交流セッションを開催することを検討する。 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・JSNA内における国際交流活動の認知度と活用の低さが明らかになったことから、認知度を高めて参加者を増やす活動を促進することが望まれる。第10回大会の国際交流セッションでは国際交流委員会の活動紹介を盛り込み、認知度向上に努める。 		
認定事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ現場においてPDCAサイクルに則った実践活動ができる公認スポーツ栄養士を養成する。 	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・公認スポーツ栄養士の検定試験合格率アップと合格に向けたフォローアップを継続して実施できた。 ・ベーシック講習会を滞りなく運営した。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公認スポーツ栄養士の検定試験合格率アップと合格に向けたフォローアップを継続する ・ベーシック講習会を滞りなく運営する。 ・養成講習会テキストの改訂作業を進める。
		経過評価	<ul style="list-style-type: none"> ・専門講習会事前説明会を2023年8月に開催した。 ・学会大会内で専門講習会受講者交流会2023年9月に開催し、22名の参加があった。対面での交流が出来て良かったなど、良い意見が多かった。 ・サテライト講習会を2023年9月と2024年4月に開催した。 ・再検定試験を2023年7月と2024年1月に実施した。 ・検定試験未受験者へ検定準備講座再受講の機会を2023年10月と2024年6月に設けた。 <p>各事業の成果を評価することは、対象者が5年間の受講有効期限内であるため、現状では難しいが、年度別の受講者に対する受講未終了者の割合、未受験者の割合、及び、受験者数を母数とした合格率は、過去と同程度で推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック講習会を2023年12月にオンラインで開催し、174名が受講した。 ・申込状況、受講者アンケート、実施状況から今後の開催方法、受講者数、受講料を検討した（次年度もオンライン形式で実施すること、受講者数および受講料は変更しないこと、要望が多かった講義終了後の質問へ対応について質問受付フォームで対応することを決定した）。引き続きマニュアルの整備を進める。 	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・専門講習会事前説明会を開催する。 ・専門講習会受講者交流会を開催する。 ・サテライト講習会を開催する（2回/年）。 ・再検定試験を実施する（2回/年）。 ・検定試験未受験者へ検定準備講座再受講の機会を設ける。 ・ベーシック講習会を、2024年12月にオンラインで開催する（3日間、受講者定員180名）。 <ul style="list-style-type: none"> ・養成講習会テキストの改訂作業のためのプロジェクトチームを立ち上げることを検討し、素案作成を行う。 ・講習会運営に関するマニュアルを整備する。

ホームページ・広報	<p>・ホームページを通じた学会活動の情報発信と見える化の充実</p>	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践フィールドで活躍する4名の会員の実践活動とキャリア形成に関する動画コンテンツを作成し、配信完了した。 ・学会活動の紹介動画コンテンツの作成準備については、未到達である。なお、この到達目標と実施計画は見直しを検討している。 ・新規サイトによる安定的情報発信基盤は構築できている。 	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認スポーツ栄養士の現状に関するアンケートを実施することを検討する。 ・通期で新規サイトの安定的情報発信を実現する。
		<p>経過評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員4名の実践活動とキャリア形成に関する動画コンテンツは、配信完了し到達目標を達成できている。 ・動画コンテンツの継続的公開の基盤と、学会活動の紹介動画コンテンツ作成については、予算が高額になることも鑑み、学会会員の意向や社会動向、必要性を継続的に検討していくことで見直しすることとした。 <p>一方で、学会活動の情報発信と見える化の充実を図る上で、本学会が認定事業を運営している公認スポーツ栄養士の現状を発信しているアンケートデータが、平成29年のもので古くなっている。有資格者がその後2倍ほどに増えていることも鑑み、18期に向けて、実施計画を「公認スポーツ栄養士の現状に関するアンケートとその結果の公開を行う」という内容で修正する方向で進めることを検討している。それに伴い、実施に向けて準備計画を進める。</p> <p>新規サイトの安定的な運営基盤は整ってきており、継続的に情報発信もできている。</p>	<p>実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認スポーツ栄養士の現状に関するアンケート実施に向けて、以下の通り計画する。 (2024年9月～12月) 実施計画、ならびにアンケート内容の具体化 (2025年1月～5月) 実施準備 (2025年6月～8月) アンケート実施 ※第11回学会大会期間中に最後の周知を行う。 ・学会事務局、ならびに執行部、委員会内部で連携し、学会ならびに会員から情報発信内容を集約し、発信フローに則り、通期を通して情報発信を行う。 ・2ヶ月に1回の頻度でHP全体を棚卸し、更新や改訂情報の確認を行う。